

2020-March
No.117

桜建会報

KEN



「青森研修旅行報告」より▲十和田市現代美術館アプローチ
▶三内丸山遺跡の巨大構造物(写真/増田一弘)



contents

特集◎建築講座 20年——2

建築の今を追った40回の講座を振り返って

第40回建築講座／東京 2020 オリンピック・体育競技場の設計と施工 西谷隆之

建築講座リスト 2000～2019

トピックス 1◎建築サロンの刷新——6

2019年日本建築学会賞受賞者を囲む夕べと同時開催

トピックス 2◎青森研修旅行報告——7

佐藤信治／平野伸／増田一弘

齋藤賞・加藤賞・桜建賞 2019年度受賞者一覧——10

オール日大建築系 2019年度授与賞・受賞者一覧——12

事務局だより——14

学部ニュース——15

日本大学桜門建築会

<http://www.okenkai.jp/>

建築講座20年

建築の今を追った40回の講座を振り返って

始まりは 安藤忠雄氏の講演

2000年10月12日、第1回目の建築講座が、建築家の安藤忠雄氏を講演者に迎えて開催された。今は取り壊されてしまった9号館地下の901講堂に大勢の聴衆が押しかけ、会場は熱気にあふれかえっていた。

講演のタイトルは「建築家の責任」。横並びの2面の画像が、時折、連続したひとつの大きな画面となり、安藤氏の話術とともに、圧倒的なプレゼンテーションを見せつけられたことを覚えている。それから20年が過ぎ、この建築講座は40回目を迎えた。

その後も、リストを見るとわか

るように、建築講座には、著名な設計者や研究者など、幅広い人たちが講演者として登壇している。

例えば、建築家たちは、こんな豪華な人たちばかり。第3回では、伊東豊雄氏を迎え、今では伊東氏の代表作となったものの、当時は開館したばかりだった「せんだいメディアテーク」(2001年)について講演を行っている。同じ年の第5回では、「建築における素材と物質性」と題して、建築界の大御所槇文彦氏が登壇している。

翌年の第7回では、篠原一男氏が、自著である『超大数集合都市へ』(2002年、A.D.A.Edita Tokyo)の出版直前に、その紹介を兼ねた講演を行っている。篠原氏は、その4年後に逝去されており、今から

思えば本人から直接話をうかがう貴重な機会となった。篠原氏には、日大とは縁遠いようなイメージを勝手に抱いていたため、その姿を大学内で見かけただけでも特別な体験であった。

第11回では、本学理工建築の出身である山本理顕氏、第12回では「建築をめざす若者への提言」と題して磯崎新氏が続く。そして、第16回では、「国立競技場」を完成させ、現在では日本建築界のトップランナーである隈研吾氏を迎えている。当時は「那珂川町馬頭広重美術館」(2000年)などを完成させたが、今のような大活躍をどれだけの人たちが予想していたのだろうか。そのほかにも、大勢の設計

◆第41回建築講座のお知らせ◆

今年の建築講座は、11月中旬ごろに開催する予定です。日時と講師が決まり次第、10月中旬ごろをめどにHPにアップいたします。どなたでも参加できますので、メール、もしくはFAXでお申し込みください。

会場は理工学部駿河台校舎1号館121会議室(予定)、参加費は無料。なお、特別維持会員は講演後、懇親会を行います。この機会に、ぜひ大学へお出かけください。

者や研究者たちが、それぞれの考えや想いを、桜建会の会員や、在学生たちに向けて語ってくれている。

日大OB・OGの活躍も紹介

一方で、卒業生の会である桜建会としては、その会員たちの活躍を紹介する機会としても、この建築講座を位置づけている。

例えば、第35回では、内村綾乃氏が日本建築学会作品賞を受賞したことを記念して、その受賞作である「SHARE yaraicho」(2014年)を紹介した。第39回では、日本建築学会の各賞を同時に受賞した斎藤公男氏(大賞)、本杉省三氏(著

作賞)、重枝豊氏・松永直美氏(業績賞)を迎え、各氏がその業績の一端を紹介するなど、会員のみならずへ報告する場にもなった。

近年は話題となる テーマをピックアップ

また、この10回ほどは、近年の動きに合わせたタイムリーな企画が続いている。第31回では、竣工直前の「東京スカイツリー」(2012年)の施工について紹介。第33回では、「東京駅」の保存・活用について紹介。第38回では、熊本地震を受けて、熊本城の復原について紹介。そして、最新の第40回では、東京オリンピック・パラリンピックが開催される直前であることか

ら、二つのスポーツ施設が紹介されている(詳しくは次ページの西谷隆之氏の記事を参照)。いずれも、あらゆる会員や在学生が興味を持つ、最新の話題となったトピックがテーマに選ばれている。

こうして、20年という節目の年に建築講座を振り返ってみた。これまでのラインナップに改めて目を通していただき、その歴史を振り返るとともに、今後の建築講座にも、ぜひ期待していただきたい。(佐藤慎也/広報委員会委員長・理工学部建築学科教授)

建築講座リスト 2000～2019

回 / 年月日	タイトル/講演者
01 / 2000.10.12	建築家の責任/安藤忠雄
02 / 2000.12.7	建築物の地震と防災/岡田恒男(日本建築学会会長)
03 / 2001.2.26	せんだいメディアテークをめぐる/伊東豊雄
04 / 2001.6.27	建築・教えること学ぶこと/中村好文
05 / 2001.10.19	建築における素材と物質性/槇文彦
06 / 2001.11.9	ワークショップと光の空間/渡辺和生(惟建築計画)
07 / 2002.1.116	超大数集合都市と住宅/篠原一男
08 / 2002.6.26	環境論の試み/高橋鷹志(東大名誉教授)
09 / 2002.7.12	アジアへの国際協力-日本建築界の役割-/今川幸雄(東大名誉教授)
10 / 2002.10.26	小泉内閣と21世紀の国家像/古賀誠(衆議院議員)



駿河台校舎9号館地下講堂で安藤氏の講演。学内外から約1500人が集まった。

第18回の古市徹雄氏講演の時のポスター



回 / 年月日	タイトル/講演者
11 / 2002.11.14	建築教育を考える/山本理顕
12 / 2002.11.22	建築をめざす若者への提言/磯崎新
13 / 2002.12.7	人工地盤とメガフロート/佐藤千昭・岡村秀雄・山田道政
14 / 2003.2.28	それぞれの役割、それぞれの未来/松田美夜子(富士常葉大学助教授)
15 / 2003.7.7	地域の木で資源循環の家づくりを/長谷川敬
16 / 2003.11.11	建築の環境化/隈研吾
17 / 2004.2.28	最終講義/平山善吉(日大建築理工)
18 / 2004.12.15	世界の風土に叡智を求めて/古市徹雄
19 / 2005.10.21	マネジメントが都市と建築を創る!/吉田博(久米設計)
20 / 2005.11.10	新教室棟の建設にあたって/宇賀神弦(久米設計)、須田尚人(大成建設)、山本一行(大成設備)、浅里和茂(工建築)

東京2020オリンピック・体育競技場の設計と施工

西谷隆之(清水建設構造設計部)

構造上の難題

有明体操競技場のDB(基本設計/日建設計)発注で示されたのは、鉄骨で補強された木やトラスではなく、大断面集成材による偏平なアーチ形状をしたスパン約90mの大空間のドームであった。(図1)

偏平なアーチの課題は、自重時の全体座屈と大きなスラスト、そして、地震や雪の偏荷重による応力と変形である。

DB発注の説明書では、「意匠変更を伴わないことを前提」と示されていた。課題等を考えると、構造的にどうやって実現するか相当悩んだ上、1986年に大学院を卒業してからちょうど30年たった2016年初夏に、齋

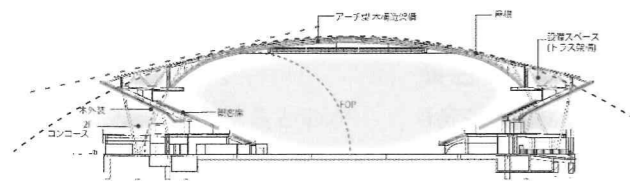


図1 DB発注時の断面図

藤公男先生に直接会い、初めて相談をしたのだった。

齋藤先生に相談して、解決策を探る

それから約10日後に当社の役員も出席のもと、先生にプレゼンテーションをしていただいた。まず初めに説明されたのは、先生に技術指導によって1990年に当社の設計施工

で竣工したグリーンドーム前橋であった。グリーンドーム前橋は、先生が永年研究された張弦梁構造である。この案件には私も入社2年目から4年間末席で担当している。

次に基本設計で提示された外観と内観のパースのイメージをどうとらえたかを話し、次に目標と課題、最後に『デザインを変えずにメカニズムを変える—複合式木質張弦梁』(図2)が提案された。これは中央の

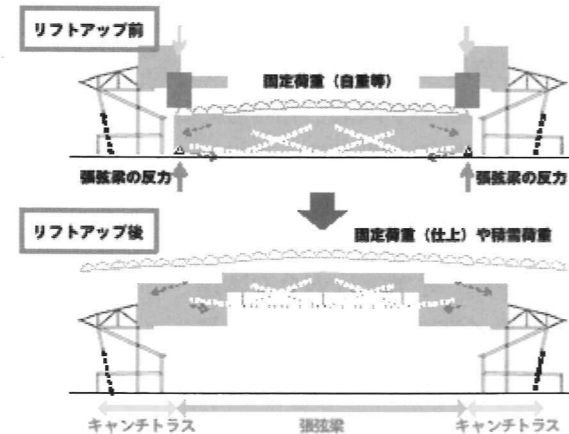


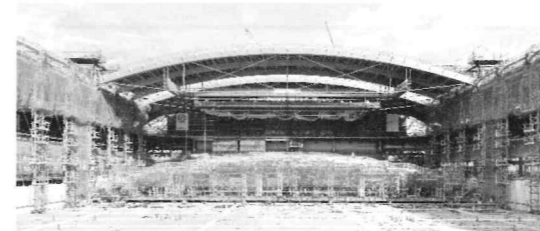
図2 複合式調弦梁の概要

約70m部分をリフトアップする施工計画まで考えられた、ホリスティックデザインであった。この時のプレゼンテーションは、まさしく、暗闇に一筋の光が射したようだった。

約4年前のことだが、今でも鮮明に覚えている。

内観・外観を統合する構造システム

この提案は、偏平なアーチのさまざまな課題の解決だけでなく、軒先の天井スペースを構造化し、キャンチトラス(CT)と張弦梁(BSS)を結合することにより、流動的でシャープな外観とドーム感覚の内観を、ひと



リフトアップ後

有明体操競技場
構造/躯体・鉄骨造、屋根・木造 3階建
建築面積/約21000㎡
延床面積/約40000㎡
収容人数/12000人
設計/日建設計
実施設計・施工/清水建設



外観

つの構造システムの中に統合するものであった。この日からアーチではないが、完全な木の圧縮利用をはかった新しい技術的挑戦がスタートした。最初のリフトアップまでわずか2年、建物完成まで約3年という、まさしく設計と技術開発と施工計画と実施工をほぼ並行して行うことができた。

前回東京オリンピックとの不思議な縁

前回の1964年の東京オリンピックの時は、1961年の年末に、丹下研

と坪井研の院生(齋藤先生は大学院1年)などあわせて30名程度で決起集会を行い、そこから約3年足らずで代々木体育館を完成させたことを齋藤先生から最近うかがった。当社は、第一体育館を施工していることもあり、運命的なものを感じたと同時に、先生からは、代々木に負けない世界に発信できる建物にしようといわれ、完成までの3年は熱い気持ちでやってきたのだった。

昨年10月、無事完成し、構造設計責任者として、先生をはじめ一緒に苦勞した仲間と関係者のみなさまに深く感謝するものである。

にしや・たかゆき 1960年東京都生まれ。84年理工学部建築学科卒業。86年理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了。同年清水建設株式会社入社設計本部構造設計部。92年大阪支店転勤。96年本社へ転勤。1992年IABSEグリーンドーム前橋発表。2016年有明体操競技場設計室構造リーダー。

2000～2019 建築講座リスト

回	年月日	タイトル/講演者
21	2005.12.13	森ビルの考えるグランドデザイン/本耕一(森ビル)
22	2006.11.14	建築士法改正の流れ/三栖邦博(日本建築士事務所協会会長)
23	2006.11.17	「メジロスタジオ」設立事務所設計/馬場兼伸(メジロスタジオ)、黒川泰孝(同左)
24	2007.1.15	川の恵みをうけるまちづくり/渡部一(多摩美術大学教授)
25	2007.1.18	世界の最新事例にみる太陽エネルギーと建築デザイン/西川省吾(理工学部電気工学科)、大野二郎(日本設計)
26	2007.11.19	ブロードバンド・ユビキタス社会が求める建築/沖田章喜(NTTファシリティーズ)
27	2008.11.17	日本建築学会会長として考えていること、やっていること/齋藤公男(日大名誉教授)
28	2009.1.17	新しい構造の実現に向けて朱鷺メッセ事故発生以来考えてきたこと他/渡辺邦夫(構造設計集団SDG)
29	2009.11.18	新しい建築士制度と、最近施工された関係法令について/黒田清行(東京建築士会)
30	2010.11.19	都心再生-丸の内の街づくり/岩井光男(三菱地所設計)

回	年月日	タイトル/講演者
31	2011.11.16	東京スカイツリーの施工について/大塚英郎(大林組)
32	2012.11.13	世界的名建築を「ばら・す」「国立代々木競技場」の誕生秘話をめぐって/神谷宏治・齋藤公男
33	2012.11.14	重要文化財・東京駅丸の内駅舎の保存・活用/田原幸夫(ジェイアール東日本建築設計事務所)
34	2013.11.20	桜門建築教育の新たな担い手に聞く/田嶋和樹(理工建築)、佐藤慎也(同左)、永井香織(生産工建築)
35	2014.11.19	シェアを建築化する試み-都市住宅の新たなオルタナティブを求めて-/内村綾乃(A studio)
36	2015.11.18	建築設計事務所の現状と今後の展望/大内達史(東京都建築士事務所協会会長)
37	2016.11.16	話題のプロジェクトをめぐる設計・施工について/和田昌樹(清水建設)、北口雄一(大成建設)
38	2017.11.15	熊本地震と熊本城の復原をめぐって/和田章(東工大名誉教授)、郭献群(構造計画研究所)
39	2018.11.14	2018年日本建築学会賞の受賞者に聞く/齋藤公男、本杉省三、重枝豊、松永直美(レモン画翠)
40	2019.11.20	二つのスポーツ施設をめぐって/村田龍馬(村田龍馬建築設計事務所)、西谷隆之(清水建設)

トピックス1◎桜建サロンの刷新

「2019年度日本建築学会賞受賞者を囲む夕べ」と同時開催

今年度は、「2019年日本建築学会賞受賞者を囲む夕べ」と題した講演会を、桜建サロンと同時開催した。これは、桜建サロンで行った初めての試みである。2019年度の日本建築学会賞を受賞された3名を講師にお迎えし、研究の経緯や苦労話を交えながら、受賞された業績について語っていただいた。

第1回 2019年9月9日(月) 18:00~20:00

題目 流体-構造連成問題への有限要素解析に関する一連の研究

講師 近藤典夫(理工学部海洋建築工学科教授)

第2回 2019年10月15日(火) 18:00~20:00

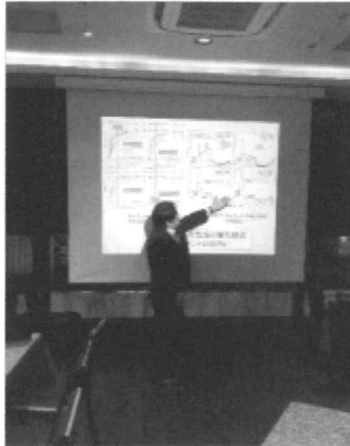
題目 表層コンクリートの品質に関する一連の研究

講師 湯浅昇(生産工学部建築工学科教授)

第3回 2019年12月9日(月) 18:00~20:00

題目 建築空間の音場拡散の理論的枠組みと測定法に関する一連の研究

講師 羽入敏樹(短期大学部建築・生活デザイン学科教授)



10月15日に行われた湯浅教授の講演。コンクリートをテーマに20名の会員が集まり、研究の内容に聞き入った。和やかな雰囲気、会員との交流を深める場となった。

桜建サロン会場変更のお知らせ

桜建サロンは、桜建会会員同士の親睦と交流・結束を目的として、2014年より加藤幸三会長(当時)が中心となり、誰でも自由に集まれる交流の場として開催してきました。今年度の桜建サロンは17年目を迎え、卒業生、在学生、教員の方々にとり、新たな世代の人集めに取り組み、会員の輪をより強くできるような魅力的なサロンに生まれ変わります。

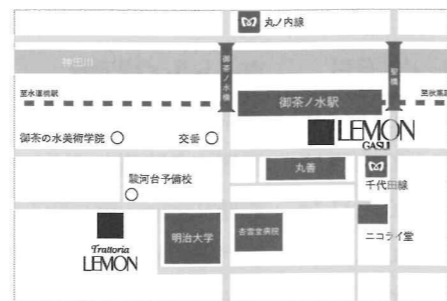
前半、後半の2部構成として、勉強会と懇親会を同時開催します。

勉強会の会場はA-Forum(斎藤公男会長が代表を務めるオフィス)の場をお借りし、最近の建築

物紹介や、現役バリバリで活躍している卒業生の仕事紹介、NUアート展作品の紹介、研修旅行見学先紹介などをテーマに、多様な意見交換の場とする予定です。

勉強会の後、1階にあるトラットリアレモンに会場を移し、飲みながら食事しながら和気あいあいと懇親会を開催する予定です。

会員の皆さまができる限り集まりやすいよう、理工学部近くのお茶の水に場所を変更し、開催は隔月程度とする予定です。2020年4月以降の開催日程は、決まり次第改めてご案内いたします。(石井要憲/桜建サロン幹事・理工院-H5)



「桜建サロン勉強会会場」

場所/A-Forum
住所/東京都千代田区神田駿河台1-5-5
レモンパートIIビル5F
TEL/03-5281-7880

トピックス2◎青森研修旅行報告

昨年11月上旬、恒例の桜建会主催の研修旅行が行われた。行き先は青森市、弘前市、八戸市など。国内最大級の縄文遺跡である三内丸山遺跡や、2008年開館した十和田市現代美術館まで、長い時の経過をめぐる旅となった。旅行の企画を立てた佐藤信治先生、青森県むつ市在住のOB平野伸さん、初参加のOB増田一弘さんにレポートを寄せていただいた。

旅程 2019年11月9~11日

9日 東京/新青森/八戸

ねぶたの家・ワ・ラッセ →

青森県立美術館 → 三内丸山遺跡 →

A-FACTORY → 八戸みろく横町

八戸泊

10日 八戸/十和田/弘前

「日本の窓」木製サッシ工場 →

十和田市現代美術館 → 十和田倶楽部

→ 奥入瀬渓流 → 十和田湖初荷峠展

望台 弘前泊

11日 弘前/石黒/東京

[弘前市内見学] 弘前市庁舎・市民博物館・

弘前城本丸・緑の相談所・市民会館 →

藤田記念庭園 → 弘前れんが倉庫美術

館 → 鳴海醸造店

桜建会旅行企画者の独り言

新しい幹事体制になって3回目の研修旅行が昨年11月9~11日にかけて開催されました。参加者は23人でした。これまでの内訳は、2017年は奈良市周遊(16名参加)、2018年は海外研修として台湾(28名参加)で行われました。今回は、国内です。

例年、桜門建築会の懇親会でフライング気味にお知らせしていたこともあり、青森県の各地を巡る旅となりました。青森県の特徴としては、青森市を中心に、西側に弘前市、東側に八戸市があり、この3つの都市を巡ることを今回の主眼としました。

[1日目] 第1日目は新青森駅に集合し、バスでねぶたの家ワ・ラッセに移動し結団式と見学をしました。その後、青森県立美術館(設計/青木淳)と三内丸山遺跡、青森産業会館で郷土のお土産を物色しました。その日はグランドサンピア八戸に宿泊。夕食を食べるやいなや八戸みろく横丁(屋台村)で二次会三次会、明日早いのに…。

[2日目] 日曜日ということもあり、八戸市の館鼻岸壁で超巨大な朝市が開催されます。11月の青森はかなり寒いのですが、朝6時だというのにすごい人出です。

その後、「日本の窓」木製サッシ工場と十和田市現代美術館(設計/西沢立衛)を見学し、昼食は十和田倶楽部、その後十和田湖に向かいます。時期的には遅いと思っていたのですが、奥入瀬渓谷では紅葉を堪能することができ、参加者の皆さまに喜んでいただきました。十和田湖の発荷峠で記念撮影、キリストの墓がある

南郷村に立ち寄ることができなかったのが残念でした。その後、弘前の翠明荘で夕食をいただきました。

[3日目] 最終日は弘前と黒石です。弘前市役所、弘前公園内で散策、弘前城の天守閣の見学、弘前市民会館と弘前市立博物館および緑の相談所、中央高校講堂、こぎん研究所(処女作)と前川國男作品を見学しました。藤田記念庭園内の松風亭を貸し切って昼食、その後今回のメインである弘前れんが倉庫美術館(設計/田根剛)の工事現場を見学しました。

ここでは、工事途中ということもあり、見学できるかは最後まで流動的でしたが、構造計画プラス・ワンの金田勝徳さんを始めとしたOBの方々のおかげもあり、有意義な時間を過ごすことができました。その後、黒石市のこみせのある鳴海醸造店を見学、お土産をたんまり購入し、新青森駅で解散しました。

*

今回の旅においても、人のつながりを実感しました。貸し切りバスの運転手さんは、筆者が同郷とわかると、かなり無理をしてコースにメリハリをつけていただきました。そのおかげで、弘前市民病院や弘前市斎場といった企画コース外の作品を見学し、前川國男全8作品を堪能することができました。

桜の時期は弘前公園、夏はねぶた、ねぶた祭り、秋の紅葉と雪景色など見るモノがいっぱいあります。さらに弘前市と八戸市に新しい美術館が開館予定ですので、ぜひ訪れてみてください。(佐藤信治/代表幹事・理工学部海洋建築工学科専任講師)



上/三内丸山の大型建造物の前。下/工事中の弘前れんが倉庫美術館前

車窓の魔法にかかると 研修旅行初参加

平野 伸

見慣れているはずの風景が…
新青森の東口を出たところで待っていたチャーターバスに乗った瞬間から、魅力的な添乗員さんも相まって車窓の魔法にかかりました。見慣れた風景のはずが一気に見知らぬ土地を巡る旅人になったのです。

秋は設計事務所の繁忙期ですからあらかじめ予定を入れておきました。それでも旅行が近づくにつれてドタキャンしようかとの思いがよぎったことを白状します。

仕事で青森県内彼方此方へ行きます。しかし、純粋な旅行っていうものは10年以上経験がないことと、観光客気分も悪くないなどの思いもあり、改めて参加することを決意しました。男の旅行ですからたいした荷物はありません。一番悩んだのはどのカメラを持って行くか、三脚はどうしようかということでした。

不思議でした。ほとんどの場所が新鮮です。さすがに何度か訪れたこ

とのある場所が大半ですが、はじめて訪れるような錯覚に陥りました。一緒に行動する諸先輩方が初見ということが大きく影響しているのでしょうか。佐藤信治先生と新宮清志先生(卒業以来です!)しか顔見知りはいなかったのです。

飲まないお酒をいただいて…

夜はお決まりの宴会です。ふだんはまったく飲まないお酒ですが、会話が弾み、数年分に相当する量を気持ちよくいただくことができました。お陰で翌朝の食事の時にパンをとりに行った際に、自分の席が(まだ食事前でした)わからなくなるというアクシデントがありました。無意識で盛りつけたため、どれが自分のものか最初から覚えていなかったことが原因ですが、一種の二日酔いとも言えるでしょう(´_`)

2泊3日の旅行も、あっという間に最終日となりました。最後の見学



左/緑の中の弘前城。右/奥入瀬渓谷 (写真/平野伸)

となる弘前れんが倉庫美術館の建設現場へ行った時のことです。現場監督の皆さんがいつせいに同行者のXさんに頭を下げたことに驚きました。Xさんは現役時代、その大手建設会社の部長さんだったということです。さすが、桜門建築会です。要所をキッチリ押さえていますね。駆け足の3日間ですが、とても楽しませていただきました。

幹事の皆さま方には感謝の至りです。I'll be back!

ひらの・しん 1960年青森県むつ市生まれ。83年理工学部海洋建築工学科卒業。東邦アセチレン技術部に入社。88年むつ市にてひらのしん設計事務所開設。ガスプラント構造物からサルの檻まで陸上構造物は何でも来いがモットー。楽しくない仕事は引き受けない主義。一級建築士・構造設計一級建築士・設備設計一級建築士・建築設備士所有。趣味は写真撮影、楽器演奏、お菓子作りなど。

左上/弘前市役所庁舎。左下/青森県立美術館。右/十和田市現代美術館 (写真/増田一弘)



素晴らしい東北の自然と 古代から現代までの建築と

増田 一弘

青森、十和田、弘前の建築を巡る3日間の旅。今回の研修旅行は、斎藤会長が私の大学時代の研究室の教授であり、また3日目の見学先「弘前れんが倉庫美術館」の施工が、私の勤務するスタートCAMであることから、山中新太郎教授よりお誘いをいただきました。

美術館、遺跡、工場見学 etc.

旅の初日は、青森県立美術館見学からスタート。隣の三内丸山遺跡の発掘現場より着想を得た躯体上下の凹凸が隙間を持ちながら噛み合さり、躯体が上部から吊られ浮いているような構造。長年施工に従事していた技術者の観点として、非常に高い施工難易度であったと思われます。

その後、縄文時代前期中頃から中期末の大規模集落跡の三内丸山遺跡を見学。遺跡には、竪穴住居の他、シンボリックな3層の大型掘立柱建物(高さ14.7m)が復元されていました。遙か5000年前、すでにこのような大規模な建造物が造られていたことに感銘を受けました。

2日目は、工場見学と美術館を巡る旅。まずは「日本の窓」の木製サッシ工場へ。1日60窓の製造能力を有する工場は、工場自体も木造平屋建てで、木造丸太4本組の柱が10m

グリッドで配置されています。日本ではシェアわずか1%余りの木造サッシですが、日本に木造サッシを普及させたいという想いがこの木造の工場にも表れているように感じました。続いて、十和田市現代美術館へ。十和田市中心部に位置するこの美術館は、それぞれの作品ごとの展示室があり、一部は外から作品を見ることができ、また、外部展示もあり、美術と街の融合が非常に印象的でした。作品が現代アートということもあり、この美術館自体が街の中のアートと思わせられる不思議な空間を体感しました。

前川建築を堪能し、自社作品へ

最終日は、弘前公園内の弘前城天守閣の他、前川國男作品である弘前市民会館、弘前市役所、弘前市立博物館および処女作である弘前こぎん研究所(木村産業研究所)など、車窓からも含め弘前の前川建築の8作品すべてを巡ることができました。

作品の特徴でもあるコンクリート打ち放し、赤茶色の打ち込みタイル、心地よい空間づくりや特徴的な色遣いなど、前川建築を堪能しました。

そして最後の見学地は、弘前市のPFI事業である施工中の弘前れんが倉庫美術館へ。明治・大正期に建設



十和田湖畔にて。平野さん(左)と増田さん(右)

されたシールド工場の倉庫を、当時の趣を残しつつ現代アートの美術館として生まれ変らせるべく改修工事が進められていました。前述の通り施工は弊社スタートCAMが行い、親会社のスタートコーポレーションを中心とした特定目的会社が事業運営を行う予定です。すでに外壁は足場が解体され終了。内部は仕上げ工事のピークを迎えている状況でした。外壁れんがの棒鋼による補強など既存の躯体、仕上げを残しながらの工事で非常に難易度の高い中、現場社員は苦労しながらも奮闘していました。

このように青森の建築を巡る研修旅行でしたが、途中奥入瀬溪流などの素晴らしい東北の自然にも触れ、またこの旅を通じ、参加された皆さまと建築について語り、新たな出会いができたことなど、たいへん有意義な時間を過ごさせていただきました。

この度はこのような貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

ますだ・かずひろ 1961年東京都生まれ。1984年理工学部建築学科卒業。同年スタートCAM株式会社に入社。入社後30年間木造からRC造までの施工管理に従事。現在は、総務部門とアフターサービス部門を統括。

齋藤賞・加藤賞・桜建賞 2019年度受賞者一覧 ＊受賞作品の紹介は次号に掲載いたします

齋藤賞

後藤佑太 (理工学部建築／修士論文)
「生活実感を反映させた環境振動評価基準値に関する研究」
指導／教授・富田隆太、特任教授・井上勝夫

阿久戸信宏 (理工学部建築／修士論文)
「積層ゴムの繰り返し依存性を考慮した応答解析手法に関する基礎的研究 -リアルタイムオンライン応答試験による応答評価-」 指導／教授・秦一平

小室昂久 (生産工学部／修士論文)
「インターロッキング土ブロックを用いたセルフビルド構法に関する研究」 指導／教授・岩田伸一郎

川口拓海 (工学部／修士論文)
「住民主体の景観まちづくりに関する研究 -白河市をケーススタディとして-」 指導／専任講師・市岡綾子

加藤賞

朝倉弘貴 (理工海洋建築／修士論文)
「鉛直荷重を受ける PC 骨組の地震後の力学的性状に関する実験的研究」
指導／教授・福井剛、非常勤講師・浜原正行

草川和広 (理工海洋建築／修士論文)
「多数回繰返し荷重を受ける RC 造十字形柱梁接合部の接合部挙動に関する研究」
指導／教授・北嶋圭二、元教授・中西三和、名誉教授・安達洋

海保紘大 (理工海洋建築／修士論文)
「SLWR が接続する浮体システムの動的挙動解析」
指導／准教授・惠藤浩朗、上席研究員・大塚文和、上席研究員・登川幸生

桜建賞

青木怜依奈、渡辺帆風 (理工学部建築／卒業論文)
「実住宅における 1 日あたりの環境振動評価基準に関する検討」 指導／教授・富田隆太、特任教授・井上勝夫

町田直輝 (理工学部建築／卒業論文)
「ヒンジリロケーション梁を用いた RC 柱梁接合部の構造性能に関する研究」
指導／教授・長沼一洋、准教授・田嶋和樹

増形響 (理工学部建築／卒業論文)
「一般化された間隙比関数を用いたせん断剛性の評価 -種々の砂質土に対する検討-」
指導／教授・山田雅一、助手・道明裕毅

森田光 (理工学部建築／卒業論文)
「インドネシア・バリ島における伝統的集落の構成 -伝統的集落全体の構成および住居概念の構成パターン分析-」
指導／教授・重枝豊、助手・加藤千晶

藤井英 (理工学部建築／卒業論文)
「神社境内における建築と舞の場との推移に関する一考察 -本殿・拝殿・舞殿等と舞の場の配置に着目して-」
指導／教授・重枝豊、助手・加藤千晶

桜建賞

瀧川未純 (理工学部建築／卒業設計)
「虚空(つなぎめ)吉本興業と福祉系分庁舎の連携による新たな複合施設の提案」 指導／教授・田所辰之助

横畑佑樹 (理工学部海洋建築／卒業論文)
「「切断」すること、それは「繋ぐ」こと -日本橋における歴史を切断した首都高速道路の再歴史化-」
指導／専任講師・佐藤信治

川口直也、山本陸人 (理工学部海洋建築／卒業論文)
「海拔ゼロメートル地帯における大規模水害を想定した整備方策に関する調査研究」
指導／助教・菅原遼、特任教授・畔柳昭雄

齊藤征大 (理工学部海洋建築／卒業論文)
「市町村連携による避難困難地区の解消に関する研究 -平成 30 年 7 月豪雨被災地を対象として-」
指導／教授・桜井慎一、助手・寺口敬秀

佐藤佳歩 (生産工／卒業設計)
「ツイグラシ」 指導／教授・渡辺康

中里翔太 (生産工／卒業設計)
「纏る壁域 -ある街に寄生する広場-」 指導／教授・岩田伸一郎

小島健吾 (生産工／卒業論文)
「拡底場所打ち杭の鉛直支持力における群杭効果に関する研究 -模型拡底杭を用いた加圧土槽実験に基づく検討-」
指導／准教授・下村修一

堀内那央、伊藤拓海 (生産工／卒業論文)
「災害時におけるインフラネットワークと都市施設の配置形態に関する考察」 指導／教授・岩田伸一郎

河本耀杜 (生産工／卒業論文)
「北海道胆振東部地震で建設された大型福祉仮設住宅の現状と課題」 指導／教授・広田直行

寺部友理 (工学部／卒業設計)
「里に賑わいを -点在する施設をつなぐ高齢者 SOHO の提案-」 指導／教授・浦部智義

植竹昌志、栗田翼、星和真、水野寛仁 (工学部／卒業論文)
「建物模型を用いた減衰評価に関する研究」 指導／専任講師・日比野巧

川崎浩長 (工学部／卒業論文)
「バクテリアを用いた自己治癒モルタルに関する基礎的研究」 指導／教授・Sanjay PAREEK

印南衣梨 (工学部／卒業論文)
「いわき市を対象とした津波避難計画 -新設された津波避難ビルの効果確認-」 指導／教授・森山修治

市川祥子 (工学部／卒業論文)
「絵図からみた白河城下の変遷と発展に関する研究」 指導／専任講師・山岸吉弘

簗野真優 (短期大学部／卒業研究・論文)
「福島市音楽堂大ホールの演目による残響可変の検討」 指導／教授・羽入敏樹

水上さゆな (短期大学部／卒業研究・設計)
「Scenographic Forests -Katsunuma Horticulture Centre-」 指導／教授・矢代眞己、助手・石田優

オール日大建築系 2019 年度 授与賞・受賞者一覧

理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻
[齋藤賞] <p>環境系および構造系分野の優れた修士論文に対し、齋藤賞基金に基づき、校門建築会より授与。元日本大学副総長、理工学部長であった齋藤謙次先生の高い業績を称えて設けられた。</p> <p>* 10 ページ参照</p>

[吉田鉄郎賞] <p>設計・計画系分野の優れた修士論文および修士設計に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。本学の設計教育の礎を築かれた建築家であり、かつ日本の建築文化の優れた論考を残した吉田鉄郎先生の業績を記念して命名。</p> <ul style="list-style-type: none">藤田歩「斜面地における高齢者の外出行動に関する研究 - 静岡県下田市須崎地区の居住者を対象として-」〈修士論文〉指導：山中新太郎教授 本田偉大「大規模浸水地域における地域防災避難施設の設計 - 墨田区京島地区の地域特性に着目した木造住宅密集地域モデルの提案 - 」（修士設計）指導：佐藤光彦教授、今村雅樹特任教授
--

[駿建賞] <p>環境系および設計・計画系分野の優れた修士論文および修士設計に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。</p> <ul style="list-style-type: none">近藤壮一郎「中空ねじりせん断試験によるセメント安定処理粘土の繰返し変形特性に関する研究」〈修士論文〉指導：山田雅一教授、道明裕毅助手 井上健太「地震動中の透水が液化化挙動に与える影響に関する実験的研究 - オンライン地震応答実験を用いた沈下量に関する検討 - 」（修士論文）指導：山田雅一教授、道明裕毅助手 中川紗里奈「コレクションを持たない美術展示施設に関する研究」〈修士論文〉指導：佐藤慎也教授、堀切梨奈子助手 前田閑彩「創宇社建築会の活動にみる「社会意識」の萌芽とその後の建築運動体による継承と発展 - 戦前期の近代建築運動における合理主義思想の再評価をめぐって-」（修士論文）指導：田所辰之助教授

[桜建賞] <p>優れた卒業論文および卒業設計に対し、校門建築会より授与。</p> <p>* 10 ページ参照</p>
--

[駿優賞] <p>優れた卒業論文および卒業設計に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。</p> <ul style="list-style-type: none">内田杏子、山崎桃花「ROC 曲線を活用した冷凍機と空気調和機の不具合識別モデルの評価」（卒業論文）指導：蜂巣浩生教授、井口雅登助教 加藤亮、梶山瑞生、田代直生、織田悠汰「MC-K 型と M-CK 型制震複合システムに関する基礎的研究」（卒業論文）指導：秦一平教授 釘宮健太「各種コンクリート型枠用合板の品質に関する調査」〈卒業論文〉指導：中田善久教授、宮田敦典助手 小針匠「板ガラスを用いた Tensegric Truss Unit の面外荷重下の応力変形挙動に関する基礎的研究」〈卒業論文〉指導：岡田章教授、宮里直也教授、廣石秀造准教授 渡部匠「一葉双曲面の網目状柱架構の座屈性状に関する実験的研究 - くびれ位置が座屈性状に及ぼす影響について - 」（卒業

毎年卒業の時期に、大学院生、学部生の勉強の成果を顕彰する各種の賞が決定する。ここでは 2019 年度に授与した学生とそのタイトルを、一覧にして紹介する。

[奨励賞] <p>優れた修士論文および優れた卒業論文・卒業設計に対し、理工学部校友会からの寄金に基づき、建築学科教室より授与。</p> <ul style="list-style-type: none">寺西諒馬「大風量小温度差床吹出型全館空調方式における室温温度差低減方法に関する研究」（修士論文）指導：蜂巣浩生教授、井口雅登助教 森下諒「競技場片持ち屋根におけるルーバー設置に伴う風荷重評価に関する研究」（修士論文）指導：岡田章教授、宮里直也教授、廣石秀造助手 松枝大貴「メソポタミア先史建築発展研究 - 建築史的アプローチによる建築遺構分析の試論 - 」（修士論文）指導：重枝豊教授、加藤千晶助手 山田香奈恵「『感覚的境界面』を用いた地域福祉施設の提案 - 世田谷区烏山地区の視覚障がい者共生施設を対象として - 」（修士設計）指導：山中新太郎教授 呉敦也、成田郁位「道路近傍における振動加速度レベルの予測及び検討」（卒業論文）指導：富田隆太教授、井上勝夫特任教授 金子亮大、小沼光紀「積雪寒冷地域の勾配屋根における屋根雪制御方法に関する基礎的研究 - 雪下ろし中の事故防止対策について - 」（卒業論文）指導：中島肇教授、石鍋雄一郎准教授 成澤茉由「日本におけるコンサートホールの設計要因に関する研究 - 設置目的と設計主旨を通して - 」（卒業論文）指導：佐藤慎也教授、堀切梨奈子助手 岩崎正人「SQUATTERS」（卒業設計）指導：古澤大輔助教

[桜建賞] <p>* 11 ページ参照</p>
[卒業論文賞] <p>優れた卒業論文に対し、建築工学科より授与。平成 26 年度に設けられた。</p> <ul style="list-style-type: none">小島健吾「拡底場所打ち杭の鉛直支持力における群杭効果に関する研究 - 模型拡底杭を用いた加圧土槽実験に基づく検討 - 」（指導：下村修一准教授 堀内那央、伊藤拓海「災害時におけるインフラネットワークと都市施設の配置形態に関する考察」指導：岩田伸一郎教授 河本權杜「北海道胆振東部地震で建設された大型福祉仮設住宅の現状と課題」指導：廣田直行教授 島崎智郁「ゴングの発音性状に関する研究 - その 4 インドネシア・ジャワ島及びバリ島のゴングの比較 - 」（指導：塩川博義教授 加藤夏乃、水野有人「伊是名集落でとらえる領域の特徴と民家の伝統的空間構成の要」指導：篠崎健一准教授 有馬栄梨、宮田潤、今井皓己、山口真緒、大里紘也「長方形箱型断面材の構造性能に関する研究」指導：藤本利昭教授 是枝真人、高石惇平、五島遼太「アルミニウム形材と集成材による合成構造梁に関する実験的研究 - 純曲げ実験 - 」（指導：小松博教授 高橋祐太「テイストの異なる和風インテリア空間のイメージに関する研究」指導：山岸輝樹専任講師 石井裕貴、吉塚有梨「給水塔の保存に関する研究 - 新潟県及び名古屋市を対象として - 」（指導：三上功生准教授

理工学部海洋建築工学科・理工学研究科海洋建築工学専攻
[加藤賞] <p>もっとも優れている修士論文に対し、校門建築会より授与。海洋建築工学科を創設された元理工学部長の加藤渉先生の功績を称えて設けられた。</p> <p>* 10 ページ参照</p>

[桜建賞] <p>* 10 ～ 11 ページ参照</p>

[海建優秀賞] <p>もっとも優れている卒業論文に対し授与。</p> <ul style="list-style-type: none">北澤龍太郎「折返しブレースの芯材の局部座屈挙動に関する実験的研究」指導：北嶋圭二教授、中西三和元教授、安達洋名誉教授 佐藤安優美、深谷勇介、茂木一将「第 I 種 PC 骨組の地震時および地震終了後の力学的挙動に関する解析的研究」指導：福井剛教授、浜原正行非常勤講師
--

[海建賞] <ul style="list-style-type: none">高橋優太「OWC 型波力発電装置の空気室容積や形状の違いが空気室特性に及ぼす影響に関する実験的研究」指導：居駒知樹教授、相田康洋助教、増田光一特任教授 鹿島瞳「弾性係留索によって係留された大型浮体の運動応

答特性」指導：恵藤浩朗准教授
・岩田泰宏、高橋紘一郎、芹澤秀太、半澤亮佑「大磯北浜海岸における複数の堆砂垣の効果観測に関する研究」指導：小林昭男教授、野志保仁助教、宇多高明客員教授
・小山田駿志「BORDERLESS ARCHITECTURE - 自国第一主義に対しての建築的提案 - 」（指導：小林直明教授
・半澤快斗「3 次元矩形容器の液面動揺に関する非線形数値シミュレーション」指導：近藤典夫教授
・関本明日香「外国人観光客における災害種別避難誘導システム及び災害種別ピクトグラムの理解度に関する研究 - 神奈川県鎌倉市を対象地として - 」（指導：山本和清専任講師

生産工学部建築工学科・生産工学研究科建築工学専攻
[齋藤賞] <p>* 10 ページ参照</p>

[金井賞] <p>優れた修士論文に対し、建築工学専攻より授与。元日本大学副総長、生産工学部長の金井清先生が地震学で高い業績（朝日賞受賞）を上げたことを称え、昭和 55 年度から設けられた。</p> <ul style="list-style-type: none">緒方智之「ソイルセメント杭の鉛直支持性能に及ぼす地盤の拘束効果に関する研究」指導：下村修一准教授

[修士設計賞] <p>優れた修士設計に対し、建築工学専攻より授与。平成 30 年度から設けられた。</p> <ul style="list-style-type: none">八橋夏菜「集合住宅における公と私の間のデザインに関する研究と提案（勝どきにおける地域に根ざした計画）」指導：渡辺康教授

[桜建賞] <p>* 11 ページ参照</p>

[卒業論文賞] <p>優れた卒業論文に対し、建築工学科より授与。平成 26 年度に設けられた。</p> <ul style="list-style-type: none">小島健吾「拡底場所打ち杭の鉛直支持力における群杭効果に関する研究 - 模型拡底杭を用いた加圧土槽実験に基づく検討 - 」（指導：下村修一准教授 堀内那央、伊藤拓海「災害時におけるインフラネットワークと都市施設の配置形態に関する考察」指導：岩田伸一郎教授 河本權杜「北海道胆振東部地震で建設された大型福祉仮設住宅の現状と課題」指導：廣田直行教授 島崎智郁「ゴングの発音性状に関する研究 - その 4 インドネシア・ジャワ島及びバリ島のゴングの比較 - 」（指導：塩川博義教授 加藤夏乃、水野有人「伊是名集落でとらえる領域の特徴と民家の伝統的空間構成の要」指導：篠崎健一准教授 有馬栄梨、宮田潤、今井皓己、山口真緒、大里紘也「長方形箱型断面材の構造性能に関する研究」指導：藤本利昭教授 是枝真人、高石惇平、五島遼太「アルミニウム形材と集成材による合成構造梁に関する実験的研究 - 純曲げ実験 - 」（指導：小松博教授 高橋祐太「テイストの異なる和風インテリア空間のイメージに関する研究」指導：山岸輝樹専任講師 石井裕貴、吉塚有梨「給水塔の保存に関する研究 - 新潟県及び名古屋市を対象として - 」（指導：三上功生准教授
--

[UIA 記念賞] <p>優れた卒業設計に対し、建築工学科より授与。昭和 53 年国際建築家連合主催の国際コンペでフランス建築アカデミー賞、昭和 56 年エジプト賞およびワルシャワ建築計画局賞の受賞を記念して、昭和 56 年度から設けられた。</p>
--

・光樂瑤子「響きあう」指導：篠崎健一准教授

[卒業設計賞] <p>優れた卒業設計に対し、建築工学科より授与。平成 26 年度に設けられた。</p> <ul style="list-style-type: none">佐藤佳歩「ツイグラス」指導：渡辺康教授 中里翔太「纏る壁域 ～ある街に寄生する広場～」指導：岩田伸一郎教授 光樂瑤子「響きあう」指導：篠崎健一准教授 廣瀬陽香「私の地図の描き方。 - 波に流されたマチ 時に流されたカチ - 」（指導：篠崎健一准教授 樋口明浩「御柱祭千年ノ歴史と望み方 - 観光化に伴うこれからの御柱祭 - 」（指導：岩田伸一郎教授 福井優奈「澄んだ川に、揺らめく緑、ワインは赤く、ワタシは白く」指導：篠崎健一准教授 佐藤杏恵「宮沢賢治が愛した原風景 - 詩「冬と銀河ステーション」から構築する駅空間」指導：渡辺康教授 伊藤拓海「入洛の門 - 持続的観光業を支える雲 - 」（指導：岩田伸一郎教授

[中国科技大學特別賞] <p>学部と学術提携締結にともない 2012 年度より設けられた賞。台湾の中国科技大學規劃設計學院より授与される。</p> <ul style="list-style-type: none">廣瀬陽香「私の地図の描き方。 - 波に流されたマチ 時に流されたカチ - 」（指導：篠崎健一准教授

工学部建築学科・工学研究科建築学専攻
[齋藤賞] <p>* 10 ページ参照</p>

[桜建賞] <p>* 11 ページ参照</p>

[北桜賞] <p>優れた修士論文に対し、工学研究科建築学専攻より授与。</p> <ul style="list-style-type: none">桐生翔太「Spectral Element Method(SEM) を用いた構造物の固有値解析に関する研究」指導：Buntara S. Gan 教授
--

短期大学部建築・生活デザイン学科
[桜建賞] <p>* 11 ページ参照</p>

[自主創造賞] <p>優れた卒業論文・卒業設計に対し、理工学部校友会建築部会からの寄金に基づき、建築・生活デザイン学科と校友会建築部会より授与。</p> <ul style="list-style-type: none">長坂美空「団地彩生 ー 農園 × シニア = 常盤平団地リノベーション計画 ー」設計　指導：川嶋勝助教
--

[奨励賞] <p>優れた卒業論文および卒業設計に対し、建築・生活デザイン学科より授与。</p> <ul style="list-style-type: none">石村優花「机上照明による作業集中力の違いに関する検討」論文　指導：羽入敏樹教授 田村拓也「積雪と屋根勾配に関する基礎実験」論文　指導：石鍋雄一郎准教授 中島勇太「POV-Ray による 12 号館の製図室の日照シミュレーション」論文　指導：星和磨准教授 手塚愛子「N' Museum - 自然と戯れる美術館 - 」（設計　指導：矢代眞己教授、石田優助手 藤井 朋美「ASO beans ～浦和駅前の子供のためのアソビ空間～」設計　指導：矢代眞己教授、石田優助手
--

2020年度の桜門建築会総会のご案内



案内図/JR御茶ノ水駅、地下鉄丸ノ内線御茶ノ水駅、地下鉄千代田線新御茶ノ水駅より、徒歩約5分程度

来たる5月27日(水)に令和2年度の桜門建築会総会を、東京ガーデンパレスにて開催いたします。会員の皆さまは、どなたでもご出席で

きますので、どうぞふるってご参加ください。ご不明な点がございましたら、HPをご覧くださいか、下記事務局までお問い合わせください。

日時/2020年5月27日(水)
総会・18:00～ 懇親会・19:00～
会費/8000円 会場/東京ガーデンパレス

スキー同好会
活動報告

2月8日、9日にスキー同好会による第2回桜建会スキー2020がパルコール姫恋スキーリゾートにて行

われました。

参加者は現地で合流した人を含め16名となり、楽しい時間を過ごすことができました。来年以降も開催いたしますので、皆さま、ぜひふるってご参加ください。



新入特別維持会員のご紹介

新規入会者 氏名/卒業年/勤務先 (令和1年11月9日～令和2年2月14日) 8名

大木 宏幸	理工建-H6	(株)フジタ	富山 陽一郎	生産工-H8	朝日エティック(株)
井本 佐保里	他大学-H17	日本大学理工学部	上樂 将史	工-H8	朝日エティック(株)
星上 幸良	理工海-63	日本大学理工学部	川嶋 勝	理工建-H8	日本大学短期大学部
恵藤 浩朗	理工海-H9	日本大学理工学部	小池 康仁	理工建-H11	(株)イズミシステム設計

桜建会報 NO.117 2020-March
発行人 斎藤公男
編集 桜門建築会広報委員会
〒101-8308 千代田区神田駿河台1-8-14
日本大学理工学部内

広報委員会
委員長 佐藤慎也(理工学部建築学科)
副委員長 塩川博義(生産工学部建築工学科)
矢代真己(短期大学部建築・生活デザイン学科)
委員 大川三雄(理工学部建築学科)
山本和清(理工学部海洋建築工学科)
亀井靖子(生産工学部建築工学科)
齋藤俊克(工学部建築学科)
北川健太(セカイ)
大西正紀(mosaki)
西山麻夕美(フリー編集者)

桜建会事務局

住所・所属の変更、クラス会の開催、投稿、会費、名簿など桜建会全般についてお気軽にご連絡、お問い合わせください。
理工学部駿河台校舎タワー・スコラ7階 S708奥
TEL03-3259-0649 FAX03-3292-3216
E-mail kaiin@okenkai.jp
ホームページ http://www.okenkai.jp/
専任/星野麻衣子
非常勤/櫻井佐和、大木明子
業務時間/AM10:00～PM5:00(月～金)

理工 建築学科トピックス①

◎佐藤光彦教授の建築作品「西所沢の住宅」「松庵の住宅」「天沼の住宅」、古澤大輔助教の建築作品「古澤邸」が『現代住宅の納まり手帖』(彰国社)に掲載された。本書は、1990年代以降の現代住宅に焦点を当てたもので、建築的に新規性のある100のディテールが部位別に紹介されている。

◎「2019年度グッドデザイン賞(主催/公益財団法人日本デザイン振興会)において、古澤大輔助教がリライトと協働で取り組んだ建築作品「コトニアガーデン新川崎」が「グッドデザイン・ベスト100」を受賞した。



「コトニアガーデン新川崎」

短大 トピックス

◎羽入敏樹教授が執筆した『音響学講座第3巻 建築音響』(共著、日本音響学会編)がコロナ社より刊行された。従来の教科書にはなかった新しい研究成果も踏まえて、建築音響学として必須の事項を解説している。音響設計というとコンサートホールを想起しがちであるが、本書ではそれ以外のあらゆる建築空間で音響設計が重要な役割を果たすことが示されている。



理工 海洋建築工学科トピックス①

◎新宮清志名誉教授は、日本建築構造技術者協会(通称/JSCA)の依頼により、当協会の機関誌「Structure」の2020年1月号(No.153)に、「特別寄稿 日本建築構造技術者協会とわたくし」と題する記事を執筆された。

工 トピックス①

◎武田昌也君(出村・齋藤研M1)は、2019年7月10～12日に開催されたコンクリート工学年次大会2019(札幌)において、論文「普通コンクリートの各種静弾性係数推定式のポーラスコンクリートへの適用」が、第41回コンクリート工学講演会年次論文奨励賞を受賞した。
◎出村克宣教授は、全国生コンクリート工業組合・同共同組合連合会が発行する「ZENNAMA」誌8月号の「My Essay」に、「生コン技術者」と題して寄稿された。
◎岡部真純さん(市岡研M1)は、10月26～27日に開催された日本インテリア学会大会2019(広島)において、論文「震災避難者の居住環境に

関する研究-復興公営住宅のコミュニティ計画とデザイナー」によって学生発表奨励賞を受賞した。
◎11月17日に郡山市公会堂で行われた、郡山市民対象の麓山地区づくりをテーマとした「あすまち会議2019～秋」で、浦部智義教授が「ロハスな建築」、宮崎渉専任講師が「木質建築」、山岸吉弘専任講師が「歴史の視点から」と題して講演、また寺部友理さん(浦部研4年)、和久井亘君(浦部研3年)が話題提供を行った。
◎浦部智義教授と宮崎渉専任講師は、11月25日、福島県木材協同組合連合会主催の研修会で、「好まれる木質内装とは」と題して講演を行った。

◎石田優助手の原著論文「ストーンボローにおける壁面の左右対称性に関する研究」(神戸芸術工科大学の小山明教授との共著)が、『日本建築学会計画系論文集(2020年1月、第767号、pp.161-170)』に掲載された。哲学者ヴィトゲンシュタインが設計したストーンボローの意匠上の要となる左右対称性の意味と意義について言及した論考。
◎山崎誠子准教授が、2019年で8回目を迎える「PLOT設計のプロセス」展(会期19年11月2日～20年2月2日)に出展。同展覧会は、『GA JAPAN 161』の特集「PLOT設計のプロセス:18組の建築家たちから発せられた、ナマな言葉で紡ぐ設計のプロセス」に連動して催されたもので、幅広いジャンルの18組の問題意識や試行錯誤をレポートし、最先端の「設計の現場」を追いかけた内容になっている。